

まずは「2025 年度 グローバル地域文化学部 1 年次履修科目登録の手引き」をよく読んでください。その上で以下を参照してください。

I. 全体

Q1. 履修登録について、何をすれば良いのか全く分かりません。

A1. 全員に共通して最低限やっていただく必要があることは以下の通りです。

・ 4 月 3 日 17:00 まで

初修外国語の先行登録 (DUET で行う)

→ 万が一、全クラス落選した場合は、7 日 10:00~15:00 の最終募集にて

再度先行登録 (DUET で行う)

・ 4 月 8 日 10:00 ~ 9 日 17:00

一般登録 (DUET で行う)

→ 必修科目である「グローバル地域文化論 I・II」「ヨーロッパ/アジア・太平洋/南北アメリカ研究入門 I・II」の登録

→ 選択必修科目 A 群、選択科目 A 群などの登録

・ 4 月 4 日~10 日

春学期オンデマンド授業期間 (授業 1 週目: DO Week)

DUET の「メッセージ」で科目担当者が授業に関する指示を行う可能性があるので必ず確認すること。

・ 4 月 11 日~

春学期面接授業開始

・ 4 月 15 日~17 日

DUET で登録科目確認表をダウンロードする。登録エラーがある場合は、GR 学部事務室にてこの期間に必ず修正すること。

Q2. 時間割の組み方がよく分かりません。

A2. まず時間割に英語と初修外国語 (ドイツ・フランス・中国・スペイン・ロシア・コリア語など英語以外の外国語) の時間、学部やコースの必修科目を入れ、空いている時間帯に、残った単位数を意識しながら、1 年次から履修できる科目の中からそれぞれ興味のある科目を取るようにして下さい。例えば選択必修科目 A 群 (グローバル・イシュー科目群)、選択科目 A 群、選択科目 C 群から選んでください。

ヨーロッパコースとアジア・太平洋コースの場合、空いている時間に履修する科目の優先順位としては、①各コースの選択科目 A 群と選択必修科目 A 群のグローバル・イシュー、

②全学共通教養教育科目（『全学共通教養教育科目 履修要項』参照）です。

アメリカコースの場合、1年次に是非履修して欲しいのは、「歴史1～4」「文化1・2」で、このうち「歴史1・2」はアングロ（北）アメリカに関する、「歴史3・4」はラテン（中南）アメリカに関する、それぞれ連続した内容です。1年次にこれらを全部履修しない場合でも、歴史1と2もしくは歴史3と4は必ずセットで履修するようにして下さい。2年次生から履修できる科目は発展的な内容、3年次生から履修できる科目は専門的な内容の講義です。

Q3. 「単位」とは何ですか？

A3. 履修した科目で一定以上の成績を修めると、その証明として大学から与えられるものです。科目によって単位数は異なります。学部ごとの教育課程（カリキュラム）に定められた授業科目を登録・履修し、試験に合格することにより、それぞれの授業科目所定の単位を得て、修業年限中に卒業に必要な単位数を修得していくことを単位制度といいます。

Q4. 1年次の間に取りべき総単位数はどのくらいですか？1セメスターに何単位までだったら、無理なく履修できますか？

A4. 1年間の登録単位の上限は44単位、1セメスター（春学期ないし秋学期の1学期）の登録最高単位数は32単位です。科目の内容にもよりますが、1年次の場合、1セメスターで20単位＋αが目安と言えるでしょう。また、4年次生で卒業要件ぎりぎりの124単位しか履修しない学生がいますが、何か一つでも単位を取れなかった場合、就職が内定していても卒業できなくなりますので、余裕をもって履修することをお勧めしています。

Q5. DUETを見ましたが、大学一括登録科目が登録されていません。

A5. 「グローバル地域文化導入セミナー（○木3）」「グローバル地域文化入門セミナー（△木3）」は4月2日0:00に、英語基幹科目の正しいクラスは4月5日0:00に、DUETに登録が反映されます。その曜日講時に別の科目を登録しないようにしましょう。

万が一、上記日時を過ぎても登録が入っていない場合は、GR学部事務室に問い合わせてください。

Q6. 先行登録科目は当選するかどうかかわからないので、同じ曜日講時にある別の科目を複数申請しても大丈夫ですか？

A6. 同じ時間割の科目が両方当選した場合は、時間割重複のエラーとなります。ただし、同一外国語の「入門Ⅰ・Ⅱ」と「インテンシヴⅠ・Ⅱ」の両方に登録希望申請し、「インテンシヴⅠ・Ⅱ」に当選した場合、「入門Ⅰ・Ⅱ」が落選します。それ以外はエラーが出ないよう、最初から時間割が重複しない科目・クラスを申請してください。万が一エラーが生じた場合は、DUETメッセージに指示が書かれている場合がありますので確認してください。

Q7. GPA とは何ですか？

A7. 各科目の成績評価を5段階（A、B、C、D、F）で評価し、各成績評価段階に4.0～0.0の評点（Grade Point）を付与して、1単位あたりの評点平均値（Grade Point Average）を算出する方法です。SA科目（スタディ・アブロード）、派遣留学など各種選考の際に考慮されますので、注意してください。

2. 外国語科目

2-1 英語

Q8. 英語型とは何ですか？

A8. 第一言語として英語を選んだ場合を「英語型」と呼びます。「英語型」「初修型」のどちらにするかは、4月9日17:00までにFormsで回答してください。

Q9. GR は英語の単位を多く取らないといけないようですが、どのように工夫すれば良いですか？

A9. まずは各年次の基幹科目にしっかり取り組み、履修中止などせず着実に単位を取ることです。また、2年次から参加できる全学のセメスタープログラム（8単位）やGRの海外語学プログラム（英語）（9単位）を履修すれば、多くの単位をまとめて取得することができます。

Q10. 英語基幹科目の他に、1年次から取れる英語の科目（単位）はありますか？

A10. CASECの基準を満たしていれば「Study Abroad Preparation (TOEFL TEST)」 「Study Abroad Preparation (IELTS)」に登録申請できます（『外国語学習ガイドブック』のほか、『登録要領』参照）。また、サマー／スプリングプログラム・英語にも1年次から参加できます。そのほか認定基準をクリアしていれば、グローバル・リベラルアーツ副専攻英語開講科目等を履修することで、単位認定をする（『履修要項』30～31頁参照）こともできます。

Q11. Study Abroad Preparation (TOEFL TEST)、Study Abroad Preparation (IELTS) は履修した方が良いですか？

A11. TOEFL や IELTS のスコアアップと留学準備を進めたい人には適した科目と言えますが、初修外国語や選択必修の科目と時間割が重複しない場合のみ履修をすすめます。

Q12. GR 学部独自の英語科目は用意されていますか？

A12. 3年次生からGR学部の英語科目「English Immersion」を履修することができますが、まずは全学の英語基幹科目を1～2年次で履修してください。また、選択必修科目C群

の外国語科目ではありませんが、2 年次から履修できる科目として、「英語で読む地域文化研究」と「Global and Regional Cultural Studies Seminar」(いずれも選択科目 D 群)があります。「英語で読む地域文化研究」は、専門的な内容を扱った英語文献を読み進めたり、英語の電子ジャーナルや資料の検索方法を身に着けたりすることで、卒業論文執筆に直接役立つ力を伸ばします。また「Global and Regional Cultural Studies Seminar」は、ディスカッションやグループ・ワークを多く取り入れた、すべて英語でおこなわれる授業です。両方ともある程度の英語力がないとついていくのは難しいですが、全学英語科目よりもアカデミックな内容を扱うため、学部への学びに適した英語力の向上につながります。

さらに、履修条件がありますが、「留学とキャリア形成」「グローバル地域文化の発信」も、GR 学部ならではの英語科目です。詳しい履修方法は履修要項を確認してください。

2-2 初修外国語

Q13. 初修型とは何ですか？

A13. 第一言語として英語ではなく第一推奨言語を選んだ場合を「初修型」と呼びます。「英語型」「初修型」のどちらにするかは、4 月 9 日 17:00 までに Forms で回答してください。

Q14. 初修外国語としてどの言語を選ぶのが良いですか？

A14. いずれのコースであっても、自分が関心ある地域で使われている言語、自分の専門に将来的に役立つ言語を選ぶのが良いでしょう。本学部の学びや卒業論文に活かせるかどうかもふまえて、自分で一度じっくり考えてみましょう。各コースとも第一推奨言語、第二推奨言語が設定されていますので、『履修要項』の 4 頁や各コースの頁で確認してください。

Q15. アジア・太平洋コースの履修言語について、私は特に学ぶ言語の種類にこだわりがありませんが、どの言語を選んだら良いですか？

A15. アジア・太平洋コースでは、初修外国語（英語以外の外国語）を第一言語にする場合は、中国語かコリア語のインテンシヴを推奨しています。英語を第一言語にする場合も、中国語かコリア語を第二言語にし、インテンシヴを履修することを推奨していますが、アラビア語・トルコ語・インドネシア語を第二言語にすることもできます。アラビア語・トルコ語・インドネシア語を選ぶ場合は、必ず英語が第一言語（卒業に 14 単位必要）で、それらは第二言語（卒業に 10 単位必要）になります。アラビア語は 6 科目（12 単位）、トルコ語・インドネシア語はいずれも 5 科目（10 単位）あります。派遣留学やセメスタープログラムなどで履修ができなかった場合は、1 年後に履修することができますが、卒業に必要な 10 単位を取りこぼすことのないよう、無理のない計画を立てて、履修していくことが必要となります。

Q16. アラビア語の履修について気をつけることはありますか？

A16. アラビア語科目については、以下の履修順を推奨します。まず1年次生で「地域文化理解のためのアラビア語 1、2、3」を、2年次生で「地域文化理解のためのアラビア語 4、5」を履修します。また、「地域文化理解のためのアラビア語 5」を履修済みで、卒論などでアラビア語に本格的に取り組みたい場合は、「地域文化理解のためのアラビア語 6」の受講を勧めます。

Q17. 既習の初修外国語を一から習うことはできますか？

A17. 可能ですが、そのレベルによってはお勧めしません。「一から習う」場合、入門Ⅰ、ⅡやインテンシヴⅠ、Ⅱを履修することになりますが、これらのクラスは初めて当該外国語を習う学生のために設置されています。レベルの異なる学生が混在することは、教学的にも、授業運営上でも好ましくありません。既習者は必ず、4月2日の外国語質問受付と4月4日の初修外国語科目登録認定で相談、レベルチェックを受け、レベルに見合ったクラスを選んでください。場合によっては初級から習うことを勧められますし、中級と判断されれば、飛び級をすることもできます。上級者には新たな言語に挑戦することを推奨しています。

Q18. なるべく沢山の言語を幅広く学びたいです。1年次から幅広い言語を履修するのはどうですか？

A18. まずは第一、第二言語で卒業に必要な単位を確実に取れる見込みが立ってからするのが安全ですが、必要単位を揃えることを優先しながら、余力があれば他の言語にもぜひチャレンジしてみてください。しかし、本当に役に立つ語学力という意味では、一つ一つの言語をしっかりとマスターすることが大事です。また、言語の必修単位（第一言語：14単位、第二言語：10単位）は他の言語の単位を合算することができないので、注意してください。

Q19. 英語型で第二言語にコースの第一推奨言語以外を選択することはできますか？

A19. ですが、以下のような点をふまえてよく検討しましょう。

- ① ドイツ語・フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語以外の言語は、科目の種類が少ないため、10単位分揃えるのが難しい場合があります。
- ② あとから初修型に変更する場合（発展セミナー申請時にのみ可）、コースの第一推奨言語で14単位を取る必要があります。

ただし、例えばヨーロッパコースで英語型、第二言語で中国語やコリア語を選択した場合でも、それらが卒論のテーマと深く関わり、関連文献・資料を読みこなすのに必要な言語であれば、本学部が目指す学びとなりえます。いずれにせよ、第一・第二推奨言語以外を選択する場合は、登録履修相談を受けてください。

Q20. 抽選に落ちた場合はどうすれば良いですか？

A20. 初修外国語のインテンシヴの抽選に落ちた場合、4月7日の10:00~15:00にDUETで最終募集を行います。希望するインテンシヴクラスに空きがない場合は、入門ク

ラスを登録してください。万が一それにも漏れた場合は、クラス未決定者に対して、後日外国語窓口で登録を認める予定です。詳細は該当者に送信される DUET メッセージを確認してください。

3. 留学

Q21. SA 科目(スタディー・アブロード科目)はいつ頃までに履修すれば良いでしょうか？

A21. 本学部では在学中に、海外留学をすることを強く推奨しています。説明会・募集・選考は早い時期にあり、事前授業も行われます。どのプログラムに参加するか、ご家族とよく相談して早めに検討し、応募することをすすめます。海外留学に必要とされる資格を取得し、志望動機を考えることにも時間がかかります。3 年次生後半からは就職活動も本格化してくるので、特に派遣留学を考えているのであれば、準備は早いうちからおこなってください。ただし、3 年次生以降の「発展セミナー」「専門セミナー」は本学部において非常に重要な学びの機会です。卒業論文にもつながります。留学がいつの時点になるかについてなど、不安がある場合は学部の教員に相談しましょう。

Q22. 派遣留学を希望していますが、派遣留学の選考試験に合格しなかった場合を考えて、派遣留学以外で SA 科目を履修しておいた方が良いですか？

A22. SA 科目の履修については、外務省による海外安全情報のレベル引き上げなど、さまざまな理由により中止になる場合もありますので、できるだけ早いうちに検討することをお勧めします。また、いずれは派遣留学を目指しているとしても、望み通りに派遣留学に行けるとは限らないので注意が必要です。派遣留学を目指している場合も、まず先に英語・初修外国語のサマープログラム、スプリングプログラムなど海外語学研修プログラムを体験しておく方法もありますので、『履修要項』23～29 頁を参照し、早い段階から履修計画を立てておくのが良いでしょう。

Q23. 留学や奨学金のため GPA を高くする必要があるのですが、履修する講義数を減らして、一つ一つの講義に集中して、A を取れる率を増やすのが良いですか？

A23. 一つ一つ真面目に取り組んで欲しいですが、卒業に必要な単位数がありますので、あまり多くの科目を残しておくのはやめましょう。無理なく履修できる範囲で時間が空いていれば、なるべく 1 年次に取りれる講義は取っておくのが良いでしょう。

Q24. 留学する場合、4 年間で卒業できますか。

A24. 本学および本学部では、短期の語学留学から海外協定大学への長期派遣留学まで様々なプログラムが用意されていますが、いずれの留学を選ぶにせよ、4 年間で卒業するためには計画的な単位取得を心がける必要があります。留学する時期によっては 4 年間で卒業できない場合もあります。就職活動や卒業論文執筆に十分な時間をかけるため、あえて卒業を遅らせる学生もいますが、それはあくまでも各人の判断にゆだねられています。

Q25. 国内でグローバルな体験ができる「グローバル地域文化学の実践」とはどのような科目ですか。また履修するにあたっての注意事項はありますか。

A25. 国内でのフィールドワークやプロジェクトをおこなうアクティブ・ラーニング型の科目です。先行登録科目ですので、必ず履修できるわけではありません。募集の時期や選考の方法、追加募集の有無については、学部 HP を確認してください。また詳しい授業内容はシラバスを参照してください。なお履修にあたっては選択 A 群科目の「質的調査の方法」（春学期開講）の履修も強く推奨します。「グローバル地域文化学の実践」を履修したのち、選択必修科目 B 群の「グローバル地域文化学の発信」を履修することによって、卒業要件を満たすことができます。